

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400031		
法人名	合同会社らんらん		
事業所名	グループホームらんらん		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字崎山128-4		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和7年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4791400031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和7年 1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境の下で、食事・入浴・排泄等日常生活の中で心身の機能訓練を行う事により、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立して生活を営む事が出来るように支援しています。地域行事(清掃作業等)に積極的に参加し、交流を図っており、地域行事や通院時等の際に、地域の方から認知症等についての相談や入所の相談を受ける機会があり、また、直接ホームへ相談に来られる方もおります。入居者のご家族や地域の方からの野菜や果物等の差し入れをいただく機会もあり、地域とのつながりの拡がりを感じています。新型コロナウイルス感染症の関係で、地域とのつながりが減ってしまいましたが、感染症も落ち着いてきましたので、地域行事への参加やホームの行事に参加していただき、地域とのつながりが拡がるように努めていきたいと思っています。また、利用者やご家族に好評の、ホーム裏の土地(無償借用)での無農薬野菜づくりにより採れた野菜がホームの食卓で食せるようにしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は理念にある地域との絆、ふれあいを大切にしている。地域主催の行事に利用者数名ずつ敬老会、新春のつどいに参加し、また区の草刈り作業へ職員は必ず参加している。隣近所の住民との付き合いも盛んで地域との良好な関係が継続できている。看取りに関して、医療資源の乏しい地域柄からご家族と本人の希望を尊重し、訪問看護と訪問診療と密に連携を取りながら看取りの対応を行っている。管理者は職員が意見を言い易いように「意見はあるかな」と問いかけて発言しやすいよう配慮している。家族からは雨天時の外出の際の対応について、職員からは利用者の状態に合わせた福祉用具の見直しについて様々な意見があり、運営へ反映している。計画作成担当者は利用者一人ひとりと個人面談を行い1対1の中で出てくる意見、主張を大切に、「自己実現」を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【あなたの想いに気づき】・【思いやりの心を持ち】・【安心して暮らせる生活】の3つを理念に掲げ、月1回のミーティング会議で、職員が共有できるように復唱し、実践につなげている。	日々の実践の中で利用者の想いを重視し、決められた日課を作ることなく利用者の主体的に過ごしたいという気持ちを大切に支援している。またご家族とのコミュニケーションを丁寧に行い地域との関わりを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、行事に参加している。新型コロナウイルス感染症が第5類になり、地域行事も復活してきており、積極的に交流を図りたいと思っていますが、新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザやマイコプラズマ肺炎が同時流行の兆しを見せている状況であり、引き続き感染予防に十分注意しながら、交流を図っていききたい。	事業所開所当時から地域と良好な関係が継続できている。地域主催の行事に利用者数名ずつ敬老会、新春のつどいに参加し、また区の草刈り作業へ職員は必ず参加している。隣近所の住民との付き合いも盛んで地元特産の野菜の差し入れもある。区長からは防災に関連した協力も依頼されており連携を密にとっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することで、地域の方から認知症の相談を受ける事があります。また、施設見学を希望され、ホームを訪れる方もおります。まだ、新型コロナウイルス感染症拡大前のような関わりは持っていないが、感染症等にも十分注意を払い、地域の方々との交流を図り、事業所の力を活かした地域貢献をしていきたいと思ひます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには、役場の職員、崎山区長、地域代表や社会福祉協議会の生活支援コーディネーターの方々に委員をお願いしているので、地域の状況等をお話いただく機会となっており、地域との関係の強化につながっており、会議での意見等をサービスの向上に生かしている。	年6回の運営推進会議の開催が会議次第と議事録から確認できる。構成員の意見交換、要望の表明も活発で運営側の進行もスムーズに行えている。地域代表と知見者の意欲的な参加が会議を充実させている。また内容も丁寧にまとめ、見やすく分かりやすい状態に整理されている。閲覧する人にも理解しやすい状態にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして村の職員にも参加していただいているので、役場を訪れる地域の方々にホームについての情報等を伝えてくれており、利用者の入退所についても協力をいただいている。	事業所開所当時から付き合いのある役場職員をはじめとした行政職員と、良好な関係ができており、入居者の空き状況の問い合わせや、村内他地区の研修案内や協力依頼など情報提供が頻繁にある。事業所からも各種報告連絡相談を積極的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは、基本的に身体拘束は行わないという事を重要事項説明書に記載している。また、ホームの身体拘束適正化のための指針を定め、職員一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針が整備されている。必要な知識については外部での集合研修、事業所が契約している研修会社の動画視聴を行ったり、職員も各自動画を探し研鑽に努めている。また、年4回の身体拘束適正化委員会を開催し情報の共有の機会を確保している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームが利用者にとって、安心と安全な場所であることを大切に考えており、利用者とのコミュニケーションを図りながら、利用者のご希望に添った支援が出来るように努めている。	高齢者虐待の指針が整備されている。外部研修にも職員を派遣して学びの機会を確保して利用者の尊厳の保持と虐待防止に努めている。一方で虐待防止委員会と担当者の配置については開催準備と担当者選定など整備中である。	年2回以上の高齢者虐待防止に関する委員会の開催の早期実現に期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議等で、権利擁護について話し合いながら、学び、学んだことを活用しながら普段の支援に活かしていきたいと思います。 今年度は、2名の職員が沖縄県高齢者権利擁護講演会に参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約にあたっては、利用者にホームの見学や試し入所をしてもらい、利用者に入所の確認をしていただいた後に、重要事項説明書に沿って利用者やご家族に十分な説明を行い、納得していただいたうえで、契約書にサイン(押印)していただき、入所していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族には、ご意見箱を常設して、ご意見・ご要望をお聴きする機会としている。また、運営推進会議に利用者及びご家族代表者に参加していただき、ホームの活動状況の説明やご意見をお聴きする機会を設けている。	家族からの要望で病院受診などの際に雨天でも濡れる心配が無いように事業所の出入口に屋根をつける雨除け設置が出たが、事業所として実現できるよう検討している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回以上開き、職員の意見や提案を聴く機会としている。	管理者は職員が意見を言い易いように「意見はあるかな」と問いかけて発言しやすいよう配慮している。職員から「入浴用のストレッチャーが必要」とのリクエストがあった際は、職員達も率先して情報収集を行いホームセンターなどで現物を探すなど費用抑制の意識をもちつつ、利用者に安全で安楽な入浴サービスが提供できるよう主体的に動いた事例がある。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が働きやすい職場を目指して、職員個々の「やりたい事」の希望を聴き、話し合いを持って、職場環境の整備に取り組んでいる。	職員の年一回の健康診断、夜勤者は半年に一回の健康診断を実施している。管理者は職員がいきいきと働けるよう日頃からコミュニケーションを意識的にとり働きやすい環境づくりを行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が利用者との関わり方等で悩んだ時には、経験豊富な職員に、何時でも相談できる状況・環境づくりに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所を立ち上げるにあたり、管理者の研修等の受け入れをしていただいた。また、支援等についてのアドバイスをいただいております、サービスの向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所契約にあたっては、家族による入所希望だけではなく、本人にも施設を直接見ていただき、必要なら体験入所をしていただいている。また、日常生活においても、本人の困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や不安な事、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めており、ご家族には出来るだけ面会に来てもらい、利用者の様子を見ていただき、面会の際に感じた事や要望等を聴かせていただき、ご家族との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にあたり、本人とご家族には、要望等について話し合いを持つとともに、面会時等にも本人やご家族の要望を聴かせていただくことにより、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事(洗濯物をたたむ等)を利用者に手伝ってもらっている。また、利用者の持っている色々な知識等について職員が教えていただくという姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、何時でもいいので、面会に来ていただき、利用者の様子を見ていただく事により、利用者の心の安定を図り、安心して生活できるように、また、要望を聴かせていただき、サービスの向上に努めたいと思っています。面会になかなか来ていただけないこともあるので、基本的には通院はご家族にお願いしており、必要な場合には車での送迎や、職員も一緒に通院して状況や薬の把握に努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方や場所等の関係を大事にし、関係が途切れないように、職員が連絡を取り、面会に来ていただいたり、必要があれば、送迎をするような支援を行う事もあったが、感染症の関係で、その機会も減った。また、利用者の中には、過去の関係を持ちたくないと思っている方もいるので、状況判断を十分にして、関係維持に努めたい。	事業所では、馴染みの関係継続を図り、ある男性利用者は入居前からの散髪屋に通い、入居後も関係性が続いて定期的な交流を楽しみにしている。また別の女性利用者も、離れた本島の地域で長く暮らしていた時からの美容室に姪の付き添いで通っている。また姉妹で入居している2人の関係性が維持できるよう支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域密着型のため、利用者同士が知り合いであることも多く、会話の中で共通の話題等もあるので、そうした機会をとらえて、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援が行えるように努めたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の理由が、利用者の医療機関への入院等により、ご家族の希望で退所されるケースがほとんどであり、契約が終了した後も、入院先に面会に行き、本人はもとより、ご家族にも喜ばれたことがあったが、必要に応じて本人やご家族の経過をフォローし、相談や支援に努めていきたいと思ひます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意思の把握に努め、困難な場合には、本人やご家族と話し合いのうえ、本人の本意が叶うように努めている。	計画作成担当者は利用者1人1人と個人面談を行い一対一の中で出てくる意見、主張を大切にしている。また、日々の生活で「自分で決める、自分で責任をもつ」ことも尊重している。独歩の利用者の日課になっている近隣の散歩も、本人家族の同意と自己責任の下に誓約書で責任の所在を明確にした上で「自己実現」を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族等にお話を伺いながら、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の普段の会話の中で、一人ひとりの1日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成者(介護支援専門員)が介護計画を作成し、職員会議等で話し合いを持ち、情報の共有を図りながら、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者は家族1人1人に介護計画についての相談連絡、説明を丁寧に行い介護支援の内容に理解を得ている。日頃の介護実践はケア会議において職員1人に対して2名の利用者担当が配置され、それぞれの日常の様子を発信相談してサービス内容の確認と共有を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践・結果・気づき等について、業務日誌(個人別記載)に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、利用者や利用者家族の代表に出席していただき、ニーズの把握により、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に参加し、地域資源を利用して、本人が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう、また、事業所も地域資源の一つとして利用していただけるよう、事業所の行事(体操教室他)にも地域の方々にも参加していただけるように努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関(今帰仁診療所等)への受診や利用者のかかりつけ医への受診を行っている。	病院受診は、契約時に説明を行い、利用者が希望するそれぞれのかかりつけ医への受診支援を行っている。協力医療機関の今帰仁診療所の医師が、ワクチン接種の訪問や食事のアドバイスを行い、利用者の健康チェック等、密に情報共有を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師の配置はないため、地域の協力医療機関の医師や看護師に相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、ご家族と共に職員も面会等を行い、利用者が安心して治療が受けられるように努めており、病院関係者とも連絡を取り合い、情報の共有による関係づくりを行っている。利用者の中には、病院からの紹介で入所された方もおられる。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針(看取り)については、ご家族には、契約時の重要事項説明書にて説明しているが、看護師の配置がないので、緊急の場合は、近隣の医療機関に搬送する事しかできなで、その辺のことをご家族には説明し、他の施設への変更も含め、話し合いのうえで、方針を決定している。	重度化や終末期についての説明を入居前に行い同意を得ている。看取りに関して、ご家族と本人の希望を尊重し、訪問看護と訪問診療を受けながら看取りの対応を行った。また、職員が安心して看取りの対応ができるように研修や定期勉強会を外部の医師や看護師の協力を得て実施している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議の際などに、応急手当や初期対応の話し合いをしており、また、ネット配信契約による研修も行っている。また、職員の家族が看護師をしており、褥瘡の予防や処置について指導してもらっている。	緊急時の対応について、会議の場で対応手順や緊急連絡など検討を行っている。また事業所が契約している研修会社の動画視聴を行い、職員への周知と共有を行い学びを深めている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	災害や感染対策については、職員会議の際に検討・確認をしている。また、避難訓練の計画・実施をしている。利用者は車椅子の利用者が多く、普段の会話の中で、意識の向上を図っている。今帰仁村防災マップを掲示し、全職員に周知している。また、ホームの災害時の業務継続計画を作成し、職員で共有している。地域の防災訓練は実施していないとのことだが、非常時の協力体制については、運営推進会議でも話し合っている。	災害や感染症に関する業務継続計画の作成がされており、勉強会の実施も行われ、感染症に関する指針や委員会の実施も行われている。昼夜を想定した訓練の実施が記録から確認でき、職員に今帰仁村の防災マップについての周知を行っている。災害時に備えて利用者と職員の3日分以上の非常食と発電機が準備されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー保護に努めている。それぞれの部屋については、利用者のスペースという事で、他者が勝手に部屋に入る事は禁止している。(利用者・職員共に共通認識のもとで) また、言葉かけ等についても、配慮して対応している。	利用者のプライバシー確保のため、必要とされる利用者に鈴を準備して呼び出し用を使用して いる。個人情報に関する保護方針が施設内に張り出されている。職員は、利用者に合わせた言葉使いを心掛け、地域の方言を本人や家族から教えてもらい、また、方言講座に赴いて職員全体で勉強をしている。施設外側4箇所に防犯の観点からカメラが設置されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見箱を設置して、何時でも本人の思いや希望の表明が出来るように努めている。外出や食事等の希望については、利用者に聴く機会を持ち、計画の立案や実施をしている。(感染症の面もあり、外出についてはドライブを中心に言い、食事面での配慮を中心に利用者の希望を受け入れて実施している)			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間・就寝等については、本人の意思を大切にしつつ、健康状態等を常に把握しながら、本人の希望に沿った支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しており、本人の希望により、家族とも連携し、美容院や理容院に送迎している。			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理する事はできないが、メニューの希望を取り入れた食事を提供するようにしている。 また、好みの食事が摂れるようにしている。	食事は利用者に合わせて、11時に食事をする等の対応を行い、3食をすべて職員が調理している。畑で利用者と一緒に収穫した野菜や近隣の方からいただいた野菜を献立に取り入れるよう心掛けている。食事内容や一日の量を変えながら品数を調整し、利用者は出来る範囲で食事の後片づけや材料の下処理を職員と一緒にやっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を心掛けている。(誤嚥が心配な方には、トロミやミキサー食の支援を行っている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの口腔状態に気をかけ、声掛けや本人の力に応じた口腔ケアの支援を行っている。(義歯の手入れや健康体操等) 利用者の歯科治療については、かかりつけの歯科医院で行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に失敗しても「大丈夫だから」と伝え、失敗したらシャワー浴をしていたが、場合によっては職員が洗浄等の支援を行っている。また、オムツを使用されている方についても、本人の意思により、トイレに行けるように支援を行っている。	共有のトイレが4箇所設置されており、尿便意を感じた際にスムーズに排泄が行えるよう環境を整えている。希望する男性利用者用に立ち小便器も設置されている。職員は、排泄チェック表を参考にしながらタイミングを見計らって声かけや誘導を行い、日中はトイレでの排泄支援を行っている。利用者個々の状態に合わせた排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所前からほとんどの方が便秘のため、必要な方には医師と相談のうえ、服薬を行っている。また、水分を摂っていただくように支援しているが、利用者の中には味のついた飲み物を好み、他の水分を摂りたがらない方もいるので、繰り返しの声掛けにより、水分を摂ってもらうように取り組んでいる。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は特に設定はしておらず、本人の希望で何時でも入浴できるようにしている。一時期、簡易浴槽を設置したこともあったが、利用者がシャワーのみでよいとのことで、安全面も考慮して、シャワーのみの入浴とした。シャワー浴は職員の介助により、ほぼ1日おきの実施。 本年度、介助用として、シャワーストレッチャーを購入し、介助に使用している。	利用者の状態に合わせた入浴の支援を行い、入浴日は特に決めずに対応している。そのため入浴拒否があった場合には、時間を変えたり、対応する職員を変えること等柔軟な対応を行っている。利用者の希望から簡易浴槽の設置や状態に合わせるためにストレッチャーを購入し、個々にそった支援を心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の掃除や片付け等については、本人の許可のもとで職員が行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。また、午睡を推奨しており、休息していただけるように支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院は基本的にはご家族に行ってもらっているが、必要に応じて職員が付き添い、薬の目的等について医師や薬剤師から話を聞き、薬の管理を含め、服薬の支援を行っている。ご家族のみの通院の際には、家族から薬の目的等を引き継ぎ、薬の保管および服薬の支援を行っている。また、職員が直接、医師や薬剤師に説明を求める事もある。	服薬に関するマニュアルと、各利用者の服薬に関する内容が一覧で作成されており変更時にはその都度更新している。病院受診後は家族から情報を得て共有したり、必要に応じて医師や薬剤師へ連絡確認を行っている。日勤者が各利用者の薬をセットし、提供時に確認することで『誤薬ゼロ』を継続できている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の中には、間違い探しやスクラッチアートを楽しむ方やカラオケが好きな方がおられるので、それぞれの好みを楽しめるように支援している。また、時代劇や沖縄民謡を好まれる方が多いので、YouTube等で視聴している。また、外出時の外食の機会が減っているので、普段の食事の中に、寿司やファーストフードを注文し、嗜好品を食する機会としている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子を使用されている方が多く、ホームの車でのドライブを楽しみにされている方もおられるが、感染症の関係で外出の機会も減ったため、職員と一緒に、ホーム周辺の散歩を実施している。また、一人で散歩や外出される方がおり、本人(携帯所持)には何かあればすぐに連絡するように伝え、気を付けて外出するように声かけている。(外出時には必ず、行く先と目的、帰ホーム予定時間等を伝えて外出するように約束あり)	散歩を日課としている方や1対1で本部へドライブをする方など利用者の希望を確認しながら外出支援を行っている。また、畑の作物の収穫をしながら日常的に外気浴を楽しんだり、一人での散歩を希望されている方は本人と家族の了承の下、携帯電話を持参して1人で散歩している。地域の住民からも散歩が認識されており見守り体制が構築されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金等については、本人の自己管理で所持されている方もおられる。以前はホームで5千円を預かり、本人の希望する物の購入時に使用するようにはしていたが、外出の自粛や通院については、ご家族が対応するようになったので、今は預かっていない。必要な時は、ホームで立て替えて、後でご家族に請求している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を所持されている方もおりますが、必要に応じて、ホームの電話を使用してもらう事もある。また、ご家族等からの電話は、本人に取り次いだり、職員がご家族のお話を本人に伝えることもある。手紙については、そのまま、本人あるいはご家族にお渡ししている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、共有空間(ホール)に飾り付け(クリスマスツリー・ひな人形・花等)を行っている。	天窓から入る自然光を活用して日中は電灯を使用せず、夕方から間接照明で心地よさを演出するよう配慮している。大型テレビが設置され、利用者が好きな番組や体操を楽しめるよう環境を整えている。また、室内でも季節を感じてもらえるよう百合の花などを飾りつけ、工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段は、共有空間(ホール)で大型テレビを見て過ごされる方が多いので、時代劇や沖縄芝居等をYouTubeにて視聴されている。(以前は、名護市のライブラリーからDVDを借りてきていた) また、カラオケ機器を使って体操(ラジオ体操やゆったり体操等)を行ったり、カラオケを楽しんだりして過ごされている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が自由に使えること(火器等危険な物の持ち込みは禁止)を基本として、他の者(他の利用者や職員)が勝手に部屋に入ることを禁止している。 職員による部屋の掃除等についても、本人の許可を得てから行うようにしている。	入居時に利用者と家族へは、自宅で使用していた物の持ち込みが可能である説明を行っている。実際に寝具やテレビ、家族写真や長年愛用しているタンス等、思い思いの品が持ち込まれ、職員は、家族の想いを汲み取りながら利用者と一緒に清潔で安全な部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりが自分の力で行う事(他の利用者等に危険がおよぶことがない事)が出来ることについては、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援していきたいと考えている。		